

お薬のしおり

胃酸を抑える薬 No.118 (H23.12)

東京医科大学病院 薬剤部

胃の調子が悪くなって、胃薬を飲んだ経験のある人は多いのではないのでしょうか？胃薬は、病院で処方してもらうもの、薬局やドラッグストアで購入できるものがあり、一口に「胃薬」と言っても、その種類は豊富です。

そもそも胃とはどのようなはたらきをする臓器か知っていますか？胃は、みぞおちのあたりに位置し、容量は 1,300~1,400mL くらいです。食物を一時的にたくわえて、栄養として吸収しやすい状態にし、胃運動によって、食物を十二指腸へと運びます。胃からは胃液が分泌されています。胃液は胃酸とペプシノーゲンと胃粘液の3つの成分からできています。

☆胃酸：食物繊維をやわらかくします。また、食物に不着した細菌の殺菌も行います。（胃酸の成分は塩酸という強力な酸です。）

☆ペプシノーゲン：胃酸によってペプシンに変化して、タンパク質を消化します。

☆胃粘液：胃粘膜を保護します。（胃酸によって胃自体が溶けないのは胃粘膜のおかげです。）

胃薬の種類には大きく分けて、攻撃因子抑制薬と防御因子増強薬があります。攻撃因子とは胃酸のことで、攻撃因子抑制薬は胃酸の分泌を抑えたり、胃酸を中和させたりすることで胃粘膜を守る薬です。一方、防御因子増強薬は胃粘膜を保護したり、胃粘液を増加させたりすることで、胃酸の攻撃から胃を守ります。

今回のお薬のしおりでは、攻撃因子抑制薬にはどのような薬があるのかを紹介します。



◆プロトンポンプ阻害薬（商品名：タケプロン、パリエット、オメプラール、ネキシウムなど）

胃の細胞にあるプロトンポンプという部分にはたらき、胃酸の分泌を最も強力に抑えます。主に胃潰瘍や十二指腸潰瘍のときに病院で処方されます（医療用医薬品）。解熱鎮痛薬を長期間服用するときに胃潰瘍などの予防の目的で処方されることもあります。また、ピロリ菌の除菌をする際には、プロトンポンプ阻害薬と抗生物質を併用します。これは、抗生物質の効果が胃酸によって弱まってしまふのを防ぐためです。

◆H₂ブロッカー（医療用医薬品の商品名：ガスター、ザンタック、タガメット、アシノン、プロテカジンなど）

胃の細胞にあるH₂（エイチツー）受容体をブロックして胃酸の分泌を抑制します。H₂のHはヒスタミンのことです。H₂受容体にヒスタミンがくっつくと胃酸が分泌されます。H₂ブロッカーはH₂受容体にヒスタミンがくっつくのを抑えます。ちなみに、ヒスタミンの受容体はH₁もあり、H₁受容体にヒスタミンがくっつくと炎症反応が起きて、くしゃみや鼻水がでたり、かゆくなったりします。ヒスタミンと聞くと、アレルギーを思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか？同じヒスタミンでもいろいろなはたらきがあるのですね。以前は医療用医薬品としてのみの発売でしたが、成分の有効性や安全性などに問題がないと判断され、薬局やドラッグストアで購入できる一般用医薬品としても発売になりました。しかし、H₂ブロッカーは一般用医薬品の中の「第1類」に分類され、安全上特に注意を要する薬となっています。購入の際には、薬剤師から書面を用いた説明を受ける必要があります。

◆制酸剤（医療用医薬品の商品名：マーロックス、マルファなど）

胃酸の分泌を抑える効果はありませんが、出過ぎた胃酸を中和することで胃内のpHを調整し、胃粘膜への刺激を抑えます。一般用医薬品では、胸焼けやむかつきに効く胃薬に配合されていることが多い成分です。

攻撃因子抑制薬のはたらきについて、理解していただけでしたか？胃について不安な症状がある方は、病院や薬局で相談してみましょう。

